

【研究テーマ】

□ 旧制静岡高等学校関係資料の整理・展示

キーワード：旧制静岡高等学校、静岡大学人文社会科学部・理学部、大学アーカイヴズ

プロジェクトの概要

- ・1922年に設置され、翌年に開学した旧制静岡高等学校は、静岡大学人文社会科学部や理学部の前身の一つに当たります。静岡市大岩にあった旧制静岡高等学校の校舎(戦後は静岡大学文理学部として使用されました)はすでに取り壊されてしまいましたが、同校の事務や学生寮、校友会などに関する資料の多くは、現在も静岡大学人文社会科学部に所蔵されています。このプロジェクト(主管は静岡大学人文社会科学部大学アーカイヴズ委員会)では、主に以下のような活動をこれまで行ってきました。
- ・資料の整理：貴重な資料を永く遺していけるように、資料目録を作成しました(その概要については戸部健『旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告』(『地域研究』創刊号、2010年)をご覧ください)。その上で、現在、各資料を中性紙封筒に入れる作業を継続しています。また、資料のなかには、写真も多く含まれています。プロジェクトではそうした写真をデジタル化し、利便性を高めました。
- ・資料の公開：資料の内容を広く知っていただくために、写真資料の一部、および『庶務課日誌』の一部を整理し、資料集として刊行しました(『旧制静岡高等学校関係写真目録』、『旧制静岡高等学校関係写真帳』、『静岡大学人文社会科学部所蔵旧制静岡高等学校・静岡大学大岩校舎関係写真帳』第1～3集、『旧制静岡高等学校 大正十二年庶務課日誌』『旧制静岡高等学校 大正十三年庶務課日誌』)。また、人文社会科学部A棟ロビーにて、年1、2回程度資料展示を行っています。さらに、旧制静岡高等学校の歴史を分かりやすく説明したブックレット『人文社会科学部への時間旅行』も作成し、配布しています。



詳細

社会連携へ向けたアピールポイント

- ・1922年に設置され、1949年に閉校(静岡大学文理学部への改組)されるまで、旧制静岡高等学校では多くの学生が学んできました。また、日本人・外国人を問わず様々な教職員がそこで働いてきました。そうした人々の子孫、および関係者の皆様からは、今でもたびたび資料閲覧の申請をいただきます。そのような依頼にはこれまで個別に応じてきましたが、今後もしもできる限り応えていきたいと思っています。
- ・旧制静岡高等学校は、戦前期静岡における最高学府の一つであったため、その影響は学外にも広く及んでいました。つまり、近代静岡の歴史を構成する上で無視できない要素であると考えます。それとの関連で、旧制静岡高の資料が、第二次大戦期の静岡の様子をうつすものとして、マスコミに紹介されたこともあり(『旧制高校生 戦時下の青春』『朝日新聞』静岡版、2021年8月23日)。今後も、静岡の歴史に関する教育、研究、さらには広報活動などにおいて、旧制静岡高の資料が広く利用されることを、我々としても願っています。



食事を囲む旧制静岡高の教員と学生 (1939年、旧制静岡高資料49-82-005)

プロジェクトリーダー



貴田 潔

学術院人文社会科学領域
人間・社会系列
准教授

プロジェクトメンバー

- ・貴田 潔 ・小二田 誠二 ・篠原 和太 ・戸部 健 ・藤井 真生
- ・松本 和明 ・山岡 拓也

相談に応じられる関連分野

- ・旧制静岡高等学校関係資料の利用

